

1 主 題 国境をこえた愛 4－(10)

2 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

内容項目4－(10)は、主として社会や集団とのかかわりに関することで、「世界の中の日本人としての自覚をもち、国際的視野に立って、世界の平和と人類の幸福に貢献する」ことをねらいとしている。

中学生になって、教科での学びを通して、また、世界中の情報を簡単に入手することができる社会にあって、これまで以上に世界の国々に対する知識や興味・関心は高まってきている。さらに、外国人講師や外国籍の生徒がいることで、実際に異文化に触れる機会も多い。しかし、興味や関心だけでは異文化を理解したことにはならず、偏見や差別なく接することは困難なこともある。

国によってももの感じ方や考え方、生活習慣などが違っても、どの国の人も同じ人間として尊重し合い、差別や偏見をもちたず公平・公正に接する態度を育て、世界の平和と人類の幸福に貢献するという自覚をもてるようにしたいと考え本主題を設定した。

(2) 生徒の実態

本学級は、明るく積極的に物事に取り組む生徒と、物静かでじっくり考えてから慎重に行動する生徒に分かれる。合唱コンクールでは、学級の中のリーダーシップだけでなく、フォロワーシップを大切にして練習に取り組み、自分に任された仕事だけでなく、忙しかったり困っていたりする友人を助ける姿や、助けられたことでまた頑張ろうとする相乗効果が多く見られた。しかし、仲のよい友人を助けることはできても、2年生も半分を過ぎようとする今でも、話したことがないクラスメートがいる生徒、自分と考え方が合わないといって交流することを避けている生徒もいる。

【実態調査】

(平成〇年〇月〇日実施 2年〇組〇人)

- | |
|--|
| Q1 家族や友人が困っていたら、放っておかずに助けることができる。 できる(8) 自分に余裕があれば助けることができる(25) できない(0) |
| Q2 見知らぬ人が困っていたら、放っておかずに助けることができる。 できる(0) 自分に余裕があれば助けることができる(26) できない(7) |
| Q3 誰に対しても、同じ気持ちで接することができる。 できる(3) できないこともある(30) できない(0) |
| Q4 世界中の戦争や紛争のため苦しんでいる人について考えたことがある。 考えたことがある(18) 少しだけある(15) 考えたことがない(0) |

以上の実態から、家族や友人など身近な人が困っていれば、手を差し出し助けようとする気持ちが強く、見ず知らずの他人であっても、できることなら手助けしたいという気持ちはあるものの、世界の平和と人類の幸福に貢献するという意識が十分に高いとは言えない。そこで、世界中にあふれる諸問題に少しでも興味・関心をもち、自分のこととして深く考え、できることから始めようとする気持ちや国際的な視野に立って世界の平和のために貢献しようとする心を育てたい。

(3) 資料について 「六千人の命のビザ」(東京書籍『明日をひらく』2年)

本資料は、第2次世界大戦という戦乱の中にありながら、生命尊重と義務の遂行との葛藤を超えて、人道的立場から大量のビザをユダヤ人に発行した杉原千畝さんを教材化したものである。職務に背き、自らの良心に従って多くの人命を救った杉原さんの決断は、常識を超えるものであったことに気付かせ、勇気ある選択の背景には国境を越えた大きな愛が存在していることを考えさせたい。また、人種や国籍が違って差別や偏見をもちたず公平・公正に接するという国際的視野に立ち、人類愛の精神をもって、世界の平和と人類の幸福に貢献しようとする心情を養うことのできる資料であると考え。

3 指導計画

| 事前 | 本時 | 事後 |
|---|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> アンケートによる生徒の実態調査 「他人を助けようか迷う場面での行動と気持ち」について、紙に書いておく 「アンネの日記」より、戦時中ユダヤ人迫害の悲惨さを話しておく | 資料「六千人の命のビザ」 <ul style="list-style-type: none"> 杉原千畝さんの人道的な行動から、身近な人だけでなく、国際的な視野に立って、同じ人間として尊重し合う | 学級通信を利用して、授業の様子や生徒の発言を保護者に伝えたり、教室に掲示したりして意識の啓蒙を図る |

4 本時の学習

(1) 目標

国際的視野に立ち、人類愛の精神をもって、世界の平和と人類の幸福に貢献しようとする心情を養う。

(2) 展開

| 主な活動と発問 | 予想される生徒の反応 | 教師の支援及び留意点○, 評価● |
|---|---|---|
| 1 他人を助けようか迷う場面での行動と気持ちを発表する。 | <ul style="list-style-type: none"> 放っておこう。誰かがやるだろう。 友だちだったら助けてもいい。 誰であっても助ける。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 自身の本音を自由に発表できる雰囲気をつくる。 ○ 「他人」が自分の知り合いである可能性も示唆し、身近な人なら助けようとする自分に気付けるようにする。 |
| 2 資料「六千人の命のビザ」を読んで話し合う。 ○ あなたが杉原さんなら、同じようにビザを発行するだろうか、発行しないだろうか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 発行する。 <理由> 何よりも人命第一。 自分がやらなければ、多くの人の命が危険にさらされる。 ・ 発行しない。 <理由> 他人よりも自分や家族が大切。 自分にはそんな権限はない。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 同じ考えをもつ生徒同士が集まるように座席の移動を行い、一人一人の立場を明確にした話合いができるようにする。 ○ 究極の状態での難しい選択が迫られていたことを意識できるように、生徒の選択の理由に補足説明を加え、ゆさぶっていく。 ○ 「発行する」という生徒に対して、「仕事を失ってしまうかもしれないけれどそれでもいいのか」という問いを投げかけ、ゆさぶりをかける。 ○ 「発行しない」という生徒に対しては、「自分と関わりの深い人であっても発行しないのか」という問いを投げかけ、ゆさぶりをかける。 ○ どちらが正しいという結論を押し付けるのではなく、お互いの意見を聞くことによって、杉原さんの心の葛藤に触れながら人の命には人種や国籍は関係ないことが感じられるようにする。 |
| ○ ビザの発行を決断した杉原さんは、どのような気持ちだっただろう。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 職務や家族よりも人命が大切。 ・ 自分の良心に従うだけだ。 ・ 家族や自分は今後どうなるのか不安だ。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ そのときの状況から、いかにビザの発行が難しかったのか押さえる。 ○ 生命尊重と職務の遂行との葛藤に気付けるようにする。 |

| | | |
|---|--|---|
| <p>◎ 「バンザイ、ニッポン」と叫んだユダヤ人は、杉原さんの行為から何を感じたのだろう。</p> <p>3 日本に戻った後の杉原さんについて知る。</p> <p>4 世界の平和や人類の幸福のために、どのようなことを考えたかを発表する。</p> <p>5 教師の説話を聞く。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 敵味方に関係なく、命を救おうとする心 ・ 人を助けるときに、自分との関わりは関係ないということ ・ 心の広さ ・ 国境を越えた人間愛 <ul style="list-style-type: none"> ・ 全ての人に平等に接する。 ・ 国際情勢をもっとよく知る。 ・ 自分にできることをする。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 杉原さんに感謝しているのに、なぜ「バンザイ、スギハラ」ではなく「バンザイ、ニッポン」という言葉を叫んだのかを考えさせる補助発問をして、国境を越え、世界の平和と人類の幸福に貢献しようとする杉原さんの姿に気付かせる。 ○ 杉原さんが助けた命が今なお増え続けていることを補足説明する。 ● 杉原千畝さんの生き方に共感し、人類の幸福に貢献しようとする心情が高まったか。(観察・ワークシート) ○ 実践への意欲化につながる説話をする。 |
|---|--|---|